

ざいます。

14ページ、資本の部につきましては、先ほど剰余金計算書でご説明のとおりで、これに負債を加えた負債、資本の合計は136億2,396万4,386円でございます。

15ページから31ページまでは、令和6年度長井市下水道事業報告書となっております。

32ページをお開きください。32ページ、キャッシュフロー計算書でございます。

1、業務活動によるキャッシュフローにつきましては3億7,915万6,768円のプラスとなりました。2、投資活動によるキャッシュフローは1,732万6,611円のプラス、3、財務活動によるキャッシュフローは5億552万8,508円のマイナスです。資金増減額の合計はマイナス1億904万5,129円で、令和6年度末における資金残高は6,852万4,081円となりました。

33ページ以降、収益費用明細書、資本的収支明細書のほか、建設改良工事の概要などを掲載しておりますので、ご参考ください。

下水道事業会計決算について説明は以上でございます。よろしくご審査の上、ご認定賜りますようお願い申し上げます。

続きまして、関連議案、議案第47号 令和6年度長井市下水道事業会計未処分利益剰余金の処分についてご説明を申し上げます。

議案第47号をご覧ください。本案は、令和6年度決算に基づく未処分利益剰余金1,679万8,049円のうち、1,000万円を減債積立金として積み立て、残余を繰り越すことについて提案するものでございます。

添付の資料のとおり、資本金及び資本剰余金については増減ございません。未処分利益剰余金処分後残高は679万8,049円となり、これを次年度へ繰り越すものでございます。

説明は以上でございます。よろしくご審査賜りますようお願い申し上げます。

○浅野敏明委員長 以上で概要の説明が終わりま

した。

令和6年度長井市各会計決算に関する総括質疑

○浅野敏明委員長 これから質疑を行います。

ここで、総括質疑の発言通告がありますので、順次ご指名いたします。

鈴木富美子委員の総括質疑

○浅野敏明委員長 順位1番、議席番号9番、鈴木富美子委員。

○9番 鈴木富美子委員 おはようございます。ともに長井の鈴木富美子です。

初めに、2款1項6目019旧長井小学校第一校舎活用事業のうちの起業家教育プログラム構築支援業務委託料412万6,958円について、総合政策課長にお伺いいたします。

起業体験事業は、令和2年度に委託料230万9,234円で始まり、令和3年度は277万2,440円、令和4年度は352万9,944円、令和5年度は479万3,892円と推移してまいりました。令和5年度の参加者は、3回ほどに分けて開催していますので、小・中・高に分けて開催されて、合計30名の参加でしたが、令和6年度は、今年の3月8日に開催され、小学校8名、中学校1名ということでございました。

既存の職業にかかわらず、新しい仕事を見つけ出すこととか、社会の仕組みを学ぶこととか、このプログラムの意義は大きいと思います。ただ、5年を経過いたしましたので、方法を見直す時期に来たのではないかと考えております。もう少し対象年代を絞り、創業・起業に結びつ

くプログラムなどを考えてもよいのではないかと思いますのですが、現在のワークショップ支援事業をどのように総括されているのか、お聞きいたします。

○浅野敏明委員長 吉川幸代総合政策課長。

○吉川幸代総合政策課長 おはようございます。

委員のご質問にお答えをいたします。

この起業体験ワークショップにつきましては、長井市におけるキャリア教育の一環として、小学生、中学生、高校生の時点から地域産業を担う地方創生人材の育成を図ることを目的といたしまして、平成29年度から実施をしている事業でございます。当時、地方創生人材育成制度によりまして、文部科学省より派遣を受けておりました泡瀬地方創生戦略監より、地方創生人材の育成としてキャリア教育の重要性と必要性につきましてのご提言をいただいて、仙台市の施設を視察したことが始まりとなっております。ここでは、起業家教育に係る事業を20年にわたり展開しておりました株式会社セルフウイングが講師を務め、子供たちがグループワークを通じて会社をつくる疑似体験プログラムを提供しておりまして、会社の事業計画の策定ですとか、資金調達のための融資交渉、また、最終的には決算などというような経営の一連の流れを体験するという内容でございました。

長井市におきましては、このプログラムを、積極性やコミュニケーション能力等、起業家精神を備えて、地域の活性化、地方創生に寄与する人材の育成を目的といたしまして事業化し、当初には、タスパークホテルを会場とし、また、令和元年度から学び、交流をコンセプトとしてオープンしました旧長井小学校第一校舎を会場として実施してまいったところでございます。

委員ご質問の令和6年度の起業家教育プログラム構築支援業務委託料につきましては、この旧長井小学校第一校舎を会場とした起業体験ワークショップ、そして、長井の未来を育む少年

会議でのグループワーク実施支援に対する委託料として支出をしております。この事業の財源につきましては、デジタル田園都市国家構想交付金のキャリア教育支援部分を充当しております。また、先ほど述べましたプログラム中の子供たちによる資金調達のための融資交渉につきましては、平成29年に締結をした金融機関との連携協定に基づきまして、山形銀行さんですとか、日本政策金融公庫様よりの実際の銀行員が子供たちのビジネスプランに対して融資の審査を行うなどの地域連携事業として実施しております。この事業を通じて、新しいビジネスやプロジェクトを立ち上げ運営する能力、また、リスクに立ち向かう精神でありますアントレプレナーシップ、起業家精神を学ぶことは、委員のおっしゃるとおり、長井市の未来を担う地方創生人材を育成する意味で大変重要であると考えております。

一方、事業の目的に照らし合わせまして、対象者ですとか、実施の開催時期、方法等については、検討をしていくことが重要であるとも考えておりますので、今後、事業を実施するに当たり、関係者ともよりよい形を協議しながら、実施したいと考えております。

○浅野敏明委員長 9番、鈴木富美子委員。

○9番 鈴木富美子委員 詳しくありがとうございます。

次に、委託料の中に、長井の未来を育む少年会議におけるフォロワーズ研修等支援が追加されておりますけども、この起業体験ワークショップとの連携とはどのようにやるのか、教えてください。

○浅野敏明委員長 吉川幸代総合政策課長。

○吉川幸代総合政策課長 長井の未来を育む少年会議は、長井市まちづくり青少年育成市民会議が主催する事業となっております。この少年会議では、市内の北、南中学校と長井高校、長井工業高校から、それぞれ4名ずつ、計16名が参

加をして、4班に分かれてのグループワークを行い、長井市の現状に基づく課題の洗い出しと深掘り、そして、その解決策と長井市の未来に向けて自分たちができることをまとめまして、特に持続可能な開発目標でありますSDGs17の目標に関連づけを行って、課題解決のための提案として発表しております。両事業とも、この課題の設定ですとか、解決策を考えるプロセスの経験、また、地方創生に貢献できる人材の育成を目指すという点におきまして、その趣旨及び目的として合致する部分も多く、両事業を連携させ、実施したものとなっております。

少年会議におけるグループワークについては、市職員がフォロワーとして参加をしまして、中立的な立場から参加者の議論を促進し、相互理解、合意形成を支援する役割を担っております。専門的な知見を有します起業体験ワークショップ事業の受託者によりまして、このフォロワーに対するファシリテーションの研修、また、全体的な助言を行うことで、この子供たちのグループワークの質を高めるとともに、地域課題の解決に起業というような視点も加わったものと考えます。

今後、両事業につきましては、継続実施をしていくことで、起業体験ワークショップの参加者が少年会議に参加するなども想定されるところでございます。

○浅野敏明委員長 9番、鈴木富美子委員。

○9番 鈴木富美子委員 少年会議の内容はすごく変わってきて、すばらしいなと最近思っております。子供たちの考えを市で取り入れて予算化できれば、もっといいのかなと思っておりますので、その点も含めて、今後考えていただければと思います。

今お話しの中の支援事業について、次年度に向けての考えを課長にお聞きいたします。

○浅野敏明委員長 吉川幸代総合政策課長。

○吉川幸代総合政策課長 今年度は、既に事業と

してプロポーザルが終了しております。参加者の募集、また、周知に努めまして、今年度につきましての実施内容については、昨年度からの流れをブラッシュアップして実施したいとまずは考えております。また、この事業自体は、委員がおっしゃいますように、大変意義深い事業であると考えております。少年会議につきましては、今年度は、長井の未来をつくる中高生アイデア会議と事業名を変更し実施するとお聞きをしております。所管課であります地域づくり推進課では、地域の企業より受けた寄附金と原資といたしまして、次年度には予算化をして、子供たちの未来に向けたアイデアの実現を後押しすることで検討しております。今後、起業体験ワークショップと中高生アイデア会議の連携も含めまして、その目的、趣旨と照らし合わせて、前述の交付金の期間がまず今年度までとなっていることもございますので、その内容につきまして、今後検討してまいりたいと思っております。

○浅野敏明委員長 9番、鈴木富美子委員。

○9番 鈴木富美子委員 ご期待いたしたいと思っております。

次に、3款3項1目生活保護総務費010ひきこもりプラットフォーム設置運営事業253万959円について、福祉あんしん課長寿介護・地域包括支援センター担当課長にお伺いいたします。

この事業は、令和5年度から始まったもので、現在の社会の課題の一つが8050問題と言われております。対応が難しい課題に対して、プラットフォーム設置運営事業が動き出したことは大変よかったなと思っております。

初めに、事業内容について、どんな取組が行われてきたのか、お聞きいたします。

○浅野敏明委員長 渡部和喜子福祉あんしん課長寿介護・地域包括支援センター担当課長。

○渡部和喜子福祉あんしん課長寿介護・地域包括支援センター担当課長 ひきこもりプラットフォーム

ホーム設置運営事業は、国庫補助金である生活困窮者就労準備支援事業費等補助金を活用し、事業を実施しております。ひきこもり状態にある当事者及びその家族等を支援することにより、当事者の社会参加を促進し、福祉の増進を図ることを目的としております。

事業の内容として、ひきこもり支援関係機関等による長井市社会参加支援プラットフォームを設置し、ひきこもり支援事業の協議、関係機関の連携強化を図り、地域のネットワークづくりを行っております。また、ひきこもり状態にある当事者や家族及び支援者を対象とした相談支援事業や、当事者が安心して過ごすことができる居場所づくり事業を令和6年8月1日から訪問看護ステーション、ライズおきたまに委託して実施しております。そのほか、当事者会、家族会開催事業として、不登校親の会みちくさクラブの定例会や勉強会への補助、民間団体との連携事業として、NPO法人から・ころセンター、認定NPO法人With優の相談会及び交流会開催への補助を行いました。さらに、ひきこもりに関する住民への普及啓発事業として、市報やデジタルサイネージ、市のホームページ、各地区民生委員・児童委員協議会定例会、ケアマネジャー連絡会議、おらんだラジオにて事業の周知を行ったほか、令和7年1月末に、ひきこもり支援に関するチラシの全戸配布を実施しております。

○浅野敏明委員長 9番、鈴木富美子委員。

○9番 鈴木富美子委員 このひきこもりってすごく難しいのではないかなと思っておりまして、いろんな方法でなされていると思うんですが、令和5年度からの2年間の事業の中で、本人や家族からの相談はどの程度あったのか、また、どのような成果があったのか、課題は何だったのか、お聞きいたします。

○浅野敏明委員長 渡部和喜子福祉あんしん課長寿介護・地域包括支援センター担当課長。

○渡部和喜子福祉あんしん課長寿介護・地域包括支援センター担当課長 令和5年度からの2年間の実績として、相談支援事業は、実人数24人、延べ人数142人、居場所づくり事業は実人数12人、延べ人数127人でした。相談支援事業から居場所の利用につながった方は4人です。相談支援、居場所づくり事業の利用者で、就労につながった方は3人、復学につながった方は3人いらっしゃいました。そのほかの方も、定期的な相談等につながっており、当事者に寄り添った支援が行えていると捉えております。

また、NPO法人との連携事業として、当事者や家族を対象とした交流会等を年に4回実施しておりますが、令和5年度は延べ61人、令和6年度は69人の参加があり、徐々にではありますが、事業が認知されてきていると考えております。プラットフォームが設置され、顔の見えるつながりの中で、支援の連携を図ることができていることも大きな成果と捉えております。

課題としては、支援を必要としている方をどのように把握し、支援を届けるかということですね。地域や関係機関と連携して、ひきこもり状態にある方の情報の共有、支援の方法の検討を行い、支援に結びつくように努めてまいります。また、支援の情報がひきこもり状態にある方や家族、支援者に届くように、引き続き市報やチラシ等を活用してまいります。

○浅野敏明委員長 9番、鈴木富美子委員。

○9番 鈴木富美子委員 ひきこもりはなかなか難しいですね。それで、いろいろ成果をお聞きして、ちょっと安心したところです。

ひきこもりは何かをきっかけとして社会との関係を閉ざしてしまうことから起きてしまうことが多いと思います。例えば病気とか、家族の問題とか、あるいは、いじめとか、様々だと思います。逆に外へ出るきっかけもあって、例えばクラブ活動とか、eスポーツとか、その人が興味のある場面をつくってあげれば、外に交流

するきっかけにもなります。そう考えますと、ひきこもりの対策は、健康スポーツ課や学校教育課、あるいは、外部機関との連携の下で新たな視点が必要になってくると思うんですが、その点について、課長の考えをお聞きいたします。

○浅野敏明委員長 渡部和喜子福祉あんしん課長 寿介護・地域包括支援センター担当課長。

○渡部和喜子福祉あんしん課長 寿介護・地域包括支援センター担当課長 市では、ひきこもりについての相談窓口を健康スポーツ課、子育て推進課、学校教育課、福祉あんしん課に設置し、相談者の年齢や状況により、おのおのの担当課で対応しております。委員のおっしゃるとおり、ひきこもり状態となるきっかけや社会参加のきっかけは、当事者により異なり、支援については様々な部署、関係機関との連携が必要と考えております。市では、今年度から重層的支援体制整備事業を実施しており、高齢、障がい、子供、生活困窮などの分野を超えた相談支援、多様な社会資源への参加支援、居場所や交流の場などの地域づくりに向けた支援を一体的に行っています。この事業の事務局は福祉あんしん課ですが、健康スポーツ課、子育て推進課、市民相談センター、学校教育課のほか、長井市コミュニティ協議会、長井市社会福祉協議会等の外部機関とも連携を取り実施しております。重層的支援体制整備事業、ひきこもりプラットフォーム設置運営事業の連動により、ひきこもり状態にある当事者や家族の方に対し、さらに寄り添った支援を行ってまいります。

○浅野敏明委員長 9番、鈴木富美子委員。

○9番 鈴木富美子委員 先ほどの中で、ライズというお言葉が、施設の名前出ましたけど、その点についてお聞きいたします。

このライズさんの事業ですが、内容的にはどんな内容だか教えていただいてもよろしいでしょうか。

○浅野敏明委員長 渡部和喜子福祉あんしん課長

寿介護・地域包括支援センター担当課長。

○渡部和喜子福祉あんしん課長 寿介護・地域包括支援センター担当課長 訪問看護ステーション、ライズおきたまに委託している事業内容としては、相談支援事業ということで、ひきこもり状態にある方及びその家族などに対しまして、電話や来所、メール、そして、訪問での相談にも対応しております。また、居場所づくり事業としまして、当事者が安心して過ごせる居場所を準備しまして、その中で、社会参加に向けた活動などの準備、行えるようにということで、支援を行っております。

○浅野敏明委員長 9番、鈴木富美子委員。

○9番 鈴木富美子委員 例えば定員とか、そういうのはあるんでしょうか。ライズさんに訪問して1日過ごせるというときの対応的にはどのような対応ができるのか、教えてください。

○浅野敏明委員長 渡部和喜子福祉あんしん課長 寿介護・地域包括支援センター担当課長。

○渡部和喜子福祉あんしん課長 寿介護・地域包括支援センター担当課長 特に定員ということは定めておりませんが、その当事者の方が利用したいという時間、その時間は当事者にとりまして、落ち着ける時間であると考えております。その方々がそれぞれ落ち着いて過ごせるようにということで、例えば時間の設定などを調整させていただいたり、そのような配慮をさせていただきます。

○浅野敏明委員長 9番、鈴木富美子委員。

○9番 鈴木富美子委員 ひきこもりは、本当に自分でしたくてしているわけでもないような気がします。ぜひ重層的に支援していただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

次、3番目に、2款1項6目国内外都市交流推進事業3,837万5,094円についてお聞きいたします。

国内外都市交流活動事業として1,218万8,659円は、八芳園、羽田イノベーションシティ、姉

妹都市及びふるさと長井会交流時のPRということですが、どのようなPRを行ったのでしょうか。また、そのときの反応や効果はどうだったのか、戦略監にお聞きいたします。

○浅野敏明委員長 竹田利弘戦略監。

○竹田利弘戦略監 主に首都圏で実施いたします本市をPRするイベント等に出展する際に、本市を知っていただくために、長井市の地場産品、例えばお菓子とか、フルーツ、あと、お酒等とか、あと飲料とかをサンプルとして提供しているもののほか、長井市を紹介するパンフレット、あと、例えば実際に長井市を訪れることを狙っておりまして、山形鉄道のポストカードなどをお配りしてございます。

各種イベントの一例でございますが、昨年度は、例えば羽田イノベーションシティ、東京等でのイベントとか、あと、八芳園の関係人口創出拡大イベントの際に、例えば白銀台にあります八芳園のMu Su Buというスペースとか、あと、麻布十番でやったり、あと、丸の内KITTEでやったりしております。あと、大田区内の商業施設ということで、ドン・キホーテの大森山王店での山形フェアというような、長井市の特産品を主に扱っている山形フェアでの本市及び地場産品のPR活動のときとか、あと、よい仕事おこしフェアということで、ビッグサイトで行われるフェアとか、そういったもので主にお配りしています。こちらのものにつきましては、少ないところで、人手が数千人から、あと、例えば今年、私も実際に行ったのがアマゾンが主催するミッドタウン東京でのフェアは、年間3,000万人、1日7万から8万人来る会場でした。あと、そのほか、今年でございますのが、SDGsのブースを出した大阪万博、あそこもとんでもない、1日何千人なんていう規模ではない人が来る会場でございますので、そのほか、先ほど、昨年申し上げたところも、1日100人とか200人という規模ではなくて、もう数

千人来る規模のところで、数回、配っておりますので、かなりなPR効果はあったのではないかなと。

長井市を紹介すると、東京の方は長井市を知らない方が大多数で、あっ、あそこにあるんだ、あっ、こんなものがあるんだ、じゃあ、行ってみようかなというきっかけづくりには非常になっているのかなと思います。

あと、ふるさと長井会の総会の交流会とか、総会時はもちろんのこと、時々、ふるさと長井会も芋煮会とかやっておりますので、そういった際にも、もっと知って、例えば会員の方がお友達とか連れてきてもらうために、そういったものにも積極的にPR品を配って、パンフレット等を友人とか知人にも配っていただいて、実際そういう方が知人、友人を連れて長井にいらっしやっていることもかなり事例がありますので、そういうところには役立っているのかなと思います。

あと、長井市を紹介するパンフレットや、サンプルとして地場産品を食べていただくとか、飲んでいただくところは、長井市の存在と魅力の一端を認知してもらうことは当然ですが、ただ配って終わりではなく、観光での来市やふるさと納税の動機づけにも非常に役立っていると思います。ふるさと納税だけの目的では当然ないんですけども、こういったイベントに出た後は、知っていただくと、ふるさと納税の寄附額も増えるというのは間違いのないところで、どうやってできるのかということも聞かれますし、そういうところにも非常に役立っているなど感じているところでございます。

○浅野敏明委員長 9番、鈴木富美子委員。

○9番 鈴木富美子委員 大分PRをされているようで安心しました。

私もこの間、ふるさと長井会のことを質問しましたが、私も早速サポーター会員になりましたら、すごい対応が早くて、いろんなご案内が

ふるさと長井会の事務局のほうから届きました。いろんなイベント、長井でも、長井のことも東京でやっていることもすごく載せていただいていますので、ぜひそんなことをきっかけに、交流人口が増えればいいなと思っておりますので、大事なPRだなと思います。

次に、市長にお伺いいたします。

同じ事業の中の、広告料として232万円についてお聞きいたします。私もテレビを見たら、「うちー・ひとみのながいナビ」というテレビに市長が映っておりました。このテレビ広告につきましては、どのようなきっかけがあつての事業だったのか教えていただきたいと思います。

加えまして、YBCテレビ、ラジオにおいても、長井市ウィークを1週間にわたり放送されているようですが、これらも含めて、広告の効果はどうだったのか、お聞きいたします。

○浅野敏明委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 ちょっと話、長くなってもよろしいですか。

実は、単発的に、依頼があつたからとか、じゃあ、これをやろうとかというのではなくて、本来であれば、広報、宣伝できる原資が見つかれば、これは長期間にわたって、しかも、戦略的にやるべきものだと思います。それはなぜかという、ただいま竹田戦略監からもありましたように、長井市というのは、全国的に非常に知名度低い。職員の採用のときに、いろいろ最終的な、私ども、内定出すためにだけに面接なんかしますが、長井のことで何かに言われたことがありますとかいろいろ、知っている人はいますとか聞くと、志願して来てくれた方の話ですと、あなたはどこの出身ですかと聞かれたとき、山形県の長井ですと、長井はどこにあるんですかと聞かれるのが一番嫌だと。実は私も嫌なんです。説明しても誰も知らないです、普通の人は。

ですから、これは、例えば昨日も50・50ですか、50本のホームランを打った大谷みたいな、ああいうスーパースターが出た町とかというのは、もう知名度、みんな知るわけですけども、我々、そんな、そういう町でもないの、本当地道にいろんなことで全国の人に知ってもらい、なおかつ、世界からも知ってもらい。その前に一番大切なことは、まずは山形県内、そして、インナープロモーションといいますか、市民が今自分たちの住んでいるまち、例えば市がどんなことをやっているとか、あと、民間でどんな動きがあるとか、そういったことをしっかりとPRというか、知ってもらうことが市民の皆様のシビックプライドにもつながりますし、いろんなまちづくり活動に対してのご協力、ご理解がいただけるものと思っています。

そのために、何といっても一番大切なことは、まずは、我々行政から見れば、長井市が実施している様々な先進的な取組、事業をまず市民の皆様にご理解、ご協力をいただきたい。そして、まちづくりにも参加していただきたいというのが、まず最初の大きな目的です。

その次に、県内の皆様から知ってもらうと、長井市民が友達だという人に、いや、長井でこういうことやっているのではないかと、どうすればチケット取れるんだとか、そういうことあるわけです。多分、鈴木富美子委員なんか、よくあると思うんですが、最近では、例えば水陸両用バスです。ここ二、三年は乗れないのですが、その前はすごい人気で、私には直接来ないです、私の妻に、もう友達とか、県外からの友達、乗りたいんだけど、チケット取れないと、どうすればいいんだとか、そういうことって、実は市民にとってみれば、友達とか、いろんな方から、長井のことでいろいろ聞かれたり、褒められたりするというのは、非常にうれしいんです。ですから、そういったことも含めて、戦略的に考えなくてははいけないと。

そんなことから、実はうちは財政再建をしましたので、とてもとても広報活動なんてできないです、テレビ番組をつくるなんていうのは。しかしながら、まず最初に、従来の手法に加えて、ホームページ充実させて、その後、やっと十二、三年前から、あやめR e p o、タブロイド版のテーマごとに掘り下げて、分かりやすいまちづくりとか、政策のそういう広報をやったんですね。でも、それだけではもちろん駄目なので、まずは、パブリシティーといいますか、新聞、テレビ等々、報道の皆様から長井市の様々な事業とか、イベントなど、そういったことなどを取り上げていただくようなパブリシティーを強化して、いわゆる記者クラブへの様々なプレスリリースとか、そういったことを進めてきました。

竹田戦略監からあったように、昨今、地方創生のソフト事業としての広告宣伝費が結構認められるようになったんですね。特に地方創生2.0、今年度から始まった部分で、観光にちなんだものなんていうのは、広報、相当使えるんですね。ですから、それを戦略的にどう使うかということが今の我々の大きな課題です。テレビの「うちー・ひとみのながいナビTV」、私がつけた名前ではありませんので、それで、こういうのを年に1回でも、ちょっといろんな紹介を含めてやるということと、あとは、いろんなコンテストをやっているんです。2年前からはDXのコンテストをしていますけど、ビジネスチャレンジコンテストなども継続して続けると。それは補助事業で取れたので、その事業をやっているわけですね。昨今は、地方創生のいろんな交付金、地方創生のソフトの交付金は実質90%の補助率ですから、非常にまたとないチャンスだということで、積極的に取り組もうとしております。

さらに、それに加えて、例えば県内民放の「提言の広場」、竹田さんも1回あるんですが、

私、5回ぐらい出ています。そういうのを誘いを受けたら積極的に出るようにしています。それを、なかなか地味な番組ですが、見ている人は着実にいて、そういったことというのは、いろんな形で広がると。あとは、YBCのテレビでやっている、YBCとか、年に1回やっているわけですね、1週間。あと、ラジオも、ラジオの番組も、私もここ3年、4年ぐらい、2つの番組、今年は1つだったんですが、出させていただいて、本当いろんな人から、聞いたぞ、聞いたぞというのは、市民はもちろん、初めて会った人にも、この間、聞きました。それぐらいメディアというのは、今SNSはもちろん若い人の主流ですし、ここをどう対応するかが今後の大きな課題なんですけども、私どももLINEで何かあったときはすぐLINE会員を増やして、そちらのほうは、着実に文書でみんなに見てもらえるんで、画像とか、そういったところを心がけていますが、それを戦略的にやっているんです。ですから、場当たりのではなくて。その原資が地方創生のソフト事業だと。

ですから、これからも特にインナープロモーションといいますか、まずは市民の皆様に広く知っていただく、長井市のまちづくりについて。それらについて、戦略的に考えていかなくはいけない。あと、外に向けても、特にふるさと納税で、ご存じだと思うんですが、フラワー長井線の1日無料券を同封しているんですね。こういうのが利用率少ないです、もちろん。かつて17億円、18億円、ふるさと納税いただいていたときは、11万人ぐらいの皆さんにそれを、はがきを含めて、配ってもらっていたんですね。その影響というのはすごくあって、もらった人は、ああ、こういうフラワー長井線、行ってみたいなということで、非常に喜んでくださる方もいらっしゃるんですね。そういったことがプロモーション活動といいますか、広く言えば、民間で言うマーケティング活動、これを地道に、

しかも根強く、根強くではないです、長期にわたって、根気よく続けていきたいと、そのように思っておりますので、ぜひ鈴木富美子委員からも、いろんな形でお力添えを、あるいはご助言をいただければと思います。

なお、いろいろ資料で作っていただいたものなのですが、例えばYBCの「ピヨ卵」なんかのテレビ、ラジオで、長井市ウイークでは、1週間、集中的に本市の取組や観光情報、地場産品のPRを実施しています。今年8月実施の長井ウイークの平均視聴率は5.8%だったって聞いているんですが、実は5.8%、低いだろうと。飛んでもないですね。地元の民放で3%から5%というのが、月9のドラマぐらいの視聴率だそうなんです。もう15%以上といたら、もう超人気番組ということで、それがこの「ピヨ卵」なんかは、時間帯もいいので、5.8%以上の視聴率で、なおかつ5日間でプレゼントをいろいろやったんですけど、1万件の応募があったと。これは、ほかのそういうウイークなんかやっても、こんなに集まらないと。ですから、それだけ長井市のほうでいろんな取組をしているので、関心を持っていただける方が、根強いファンが少しずつ広がっているんだと思っております。

そんなことで、これからいろんな形で広く財源を見つけながら広報活動をして、長井市の取組を、市民はもちろん、いろんな方に知っていただきたいと思っております。

○浅野敏明委員長 9番、鈴木富美子委員。

○9番 鈴木富美子委員 確かにメディアはすごいですね。私でさえも、何かヒョウで映ったときには、どこよりも電話来て、びっくりしました。それほど効果があるんだなということで、テレビというのはちょっと見逃せない広告になるんだなと思いました。

水陸両用バスなどにつきましても、先ほど市長おっしゃったように、私にも電話来ました、

いろいろと。それほど長井市はいろんなことやっていますねとはよく言われますので、ぜひこのまま頑張っていただければと思います。

次の質問だったんですが、市長に今いろいろ話いただいたので、重複しますが、この事業を総括いたしまして、次年度について、事業をどういうふうに展開していくのか、あと、課題も含めて、どういうふうに考えていますかとお聞きしたいんですが、ちょっと重複しますが、よろしいでしょうか。お願いいたします。

○浅野敏明委員長 内容重治市長。

○内容重治市長 先ほどの答弁では、少し余計なことも言って、申し訳ありませんでした。

今行っていることを基本的に、これからも続けていくと。いろいろ改良しながらです。長井市でちょっと市役所として欠けている視点というのは、それぞれの部署で頑張っているんですが、一元的にトータルとして戦略的な広報活動ができてないなと思っておりますので、こちらについて、なかなか職員も若い優秀な職員たくさんいて、しかも、女性の視点でいろんな取組を提案していただいているので、これを生かす意味でも、戦略的な、もう外部人材の活用、ただ、財源的なところがあるんで、限られてしまうかもしれませんが、そんなことで取り組んでいきたいと思っておりますし、国内外都市の交流推進事業もいろいろ……。ごめんなさい。今後の取組なんですが、せんだってのTICADでのホームタウンで、非常に誤った情報というのは、もう本当に拡散すると。東京都のほうでも、小池知事もおっしゃっていましたが、本当に我々行政もそういったところをしっかりと真実を伝える。それをもっともっと努力しなきゃいけない。普通に考えれば、今回のタンザニアの我々の件も、普通で考えて、日本政府がそんなことできるわけじゃないかと、地方自治体をほかの国にささげるなんていうのはあり得ないわけで、ただ、それが誤って捉えた人が発

信して、それをみんなびっくりするんで、一斉に広がるということだと思んですけども、そういういったところを我々も意識しながら、正確な情報をきちんと伝えていくということを行っていきたいと思っています。

国際交流のはまた別ですか。この件でいいんですか。国内外海外都市交流のこれの3点目の部分ではないんですか、今は。

ごめんなさい、失礼します。

○浅野敏明委員長 9番、鈴木富美子委員。

○9番 鈴木富美子委員 先ほど戦略監にお聞きしたので、その点について、もし市長のお考えがあれば、教えていただければと思います。お願いします。

○浅野敏明委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 大変失礼しました。

委員もご承知のとおり、今回で2回目でありましたけれども、姉妹都市のバートゼッキンゲン市から働きかけがあって、2年前にドイツのバートゼッキンゲン市と、あと、フランスですね、ゼッキンゲンの姉妹都市を中心に、5か国の若者が集まって、2週間ぐらいのいろんな交流事業、合宿みたいなのをして、そこに長井からも十数人の中高生と、あと、教師も一緒に同行したわけですけども、今年8月に、また2年ぶりにございまして、今回はゼッキンゲンとイタリアで、来年からは、2年に1回とかではなくて、できるだけ年に1回しようというような呼びかけもあります。もしかしたら、長井でやってくれみたいなことを言われていますので、果たして私どもでそれを受けられるかどうかなんですけど、そんなことで、まずは、若い人たちの海外といいますか、外国の方の交流事業をずっと続けていきたいと思っています。

また、これは長井高校の東京鷹桜同窓会のほうで、少しご寄附をいただいたものがあるので、そのお金を原資として、長井高校の生徒の皆さんが海外で、例えばホームステイとか、そうい

ったことをできるような制度を市としても協力してくれないかということも言われておりまして、私どもとしては、まずは、長井市内の中学生、高校生が、これは全員というわけにはいかないんですが、希望者がそういうふうに行けるような、そういう取組を制度としてつくって、今後はいろんな形で、海外の人たちと、その国の文化とか、歴史とか、そういったことを語り合えたり、お互い理解できるきっかけとなるような、そんな事業をぜひ進めていきたいと思っていますし、国際ユースキャンプ派遣事業ということで今回行ったところですけども、これは、中国の双鴨山市と、それから、タンザニアのドドマ市、これは姉妹都市、友好都市なわけですから、ちょっと遠い近いはありますけども、そういったことの課題はあるとしても、特に若い人たちからの要望なんですね。少年会議なんかで、2回行ったわけですけども、高校生、特に高校生の皆さんから海外の人たちと、特に若者同士で、交流する、そういうきっかけをぜひつくってほしいということでありますので、私どもとしては、広報宣伝活動と併せて、そういった国内外の都市交流事業を進めながら、より情報をうまく正確に伝えると同時に、その情報を通して、友達になったり、あるいは実際に会って、お互いに相互理解できるような、よき、将来は、日本のパートナーとなる国々の人たちと仲よくできるように、その基礎づくりを進めていきたいと思っています。

○浅野敏明委員長 9番、鈴木富美子委員。

○9番 鈴木富美子委員 若い人の希望をぜひかなえてあげたいと思いますが、貴重な財源ですので、その辺、慎重に検討しながら行っていただきたいと思っています。

私からは以上です。

鈴木 裕委員の総括質疑